

▼編集委員会から

四月一〇日、五月一五日の二回に亘り、年報「村落社会研究・第七集」の編集議題を中心に委員会を開きました。

○年報第七集の編集について

年報第七集の編集は、去る五月一五日の委員会で、掲載原稿等の最終決定を終え、稿書房へ原稿を渡しました。一〇月上旬に刊行の予定です。今回は例年になく、多くの方々から原稿を寄せていただきました。委員会では大会総会で確認されました趣意に従い、提出原稿の内容検討を約一ヶ月の期間をおいて行い、その検討結果と年報頁数等の制限を考慮に入れ、掲載原稿を最終的に決定しました。その結果、原稿を寄せて下さいました数名の方々には、不本意ながら掲載を辞退していただくことになりました。なお、今回は委員の新旧交替などもあって連絡の行届かなかったことから、一部の方々に対して大変御迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいたします。年報第七集の主な構成はつぎのとおりです。

「今井邸系図」にみる近世農民の家 岩本 由輝

山村社会の変容と若者組織 江馬 成也

大都市近郊における村落社会の変容過程 民秋 言

村落社会研究の方法

一、 安孫子 麟

二、 高橋 明善

三、 田原 音和

「共同体」研究における一試論 似田貝香門

(研究ノート)

共同農場の成立と解体 熊谷 苑子

(研究動向)

史学・経済史学

社会学

社会学

法学・法社会学

(大会記事・編集後記)

○年報第八集の原稿募集要領について

昨年第一八回大会の際に決定しました「年報編集方針」により、年報第八集の原稿の募集要領は従来の扱い方からつぎのように変更されますので御注意のうえ、奮って御応募されますようお願いいたします。

(主な改正点)

(1)執筆希望者は、本年度大会(一〇月一三・一四日予定)までに、題目・要旨を添えて編集委員会に申込むこと。

(2)執筆者の決定は、大会終了直後(またはなるべく早い機会)に、申込まれた執筆希望者および大会報告者(特に必要な場合は上記以外の方を含む)の中から編集委員会において選定委嘱する。

(3)原稿の枚数・体裁等については、編集委員会において決定し、執筆者に通知する。 以上

○「研究叢書」第二輯の刊行案内

会員待望の村落社会調査研究叢書の第二輯は、内藤莞爾会員の労作「西南九州の末子相続」を刊行すべく準備を進めてきました。印刷その他の事情により当初に予定していましたが刊行期日より大分遅

岡 光夫

高山 隆三

黒崎八洲次良

神谷 力

れてしまい、会員の皆様に御迷惑をおかけしましたが、漸く完成の運びにいたしました。

定価二、〇〇〇円（会員定価一、七〇〇円、但し郵送料を含む。なお、郵送料を差引いた会員定価での販売はいたしませんので御了知下さい）御希望の際は、直接「痛書房」へ申込んで下さい（振替は東京八七八二です。）

同研究叢書第一輯、岩本由輝著「近世漁村共同体の変遷過程」は、まだ残部があります。いまだ入手されておられない方は、是非この機会に併せて御購読下さるよう希望します。（会員定価は一、七〇〇円）また、お近かくにおられます非会員の方々にも、研究叢書の宣伝・購読推薦していただければ幸いです。

○研究叢書第三輯の原稿募集について

御通知がおくれましたが、研究叢書第三輯の原稿を左記により募集します。自薦他薦を問わず申込まれますよう希望します。

一、応募手続き 予定の原稿題目・要旨（四〇〇字二〜三枚程度）を添えて、来る七月末日までに申出て下さい。また、どなたかを推薦して下さる場合には、氏名・調査研究の概要等についてお知らせ下さい。

二、原稿枚数 四〇〇枚（四百字詰）

三、原稿メ切 本年一〇月三十一日

尚、既に研究通信六〇号でもお知らせしておりますように、研究叢書の著者に対して原稿料・印税等をお支払いいたしません。利益が生じた場合には、刊行基金に繰入れてもらうことになっていきますことを念のためお知らせします。著者に対する献本は五冊

を予定しています。

編集事務局（柿崎記）